

# 中国・「東北振興」と日本

ERINA調査研究部主任研究員 辻 久子

## 1. 中国・「東北振興」計画の狙いと課題

中国東北3省の振興策が動き始めた。その発端は2003年1月に温家宝総理が東北3省を訪問し、5～6月には東北振興を通じて中国経済の構造調整を行う決意を表明した。同年10月に開催された党16期大会において、東北地区等旧工業基地の調整・改造を支持する決定がなされ、国務院はこれを西部大開発に並ぶ重大な戦略的プロジェクトと位置づけた。同年12月には国務院東北地区等旧工業基地振興指導小組を設立、温家宝総理が組長に就任した。

東北振興の基本方針である「旧工業基地の調整・改造」とは中国東北部における重工業を復権させることを意味する。1970年代末に改革・開放政策が導入されるまで、東北部は装備製造業の拠点として重工業分野で中国経済を牽引してきた。しかし、重厚長大型国有企業主体の産業構造であったため、改革・開放以降の軽工業・外資を牽引役とした市場経済化の流れに適応できず、東北部の経済は低迷するようになった。“東北現象”とも言われる経済的沈滞である。今回の東北振興策は、経済発展が遅れてきた東北部の発展に挺入れしようというだけでなく、中国の経済成長を牽引する役目を、東北の重工業にも担わせようとの意図があると考えられることができる。

中国政府が推進する東北振興戦略の狙いは何か。第一に、従来東北地域が持っている優れた経済インフラ<sup>1</sup>や交通網、優秀な人材や優れた生態環境といった優位性を活用し、“東北現象”といわれる沈滞から脱出することである。具体的には国有企業の再編・改革が鍵となる。第二に、東北地域経済の調和のとれた発展や国民経済全体の持続的成長を推進するというマクロ的狙いがある。第三に、東北地域の対外開放を推進し、北東アジア周辺国と緊密な経済協力をを行うことであろう。既に、“アセアン+3”首脳会議で温家

宝総理は、日本と韓国に東北地域を共同で開発することを提案した<sup>2</sup>。

政策措置としては、2003年10月に東北3省で100件の第1期プロジェクトを批准・公表し、これらのプロジェクトに対し、総額で610億元の資金が用意されることが発表された（資料3参照）。他に、東北振興銀行の設立が計画されている。さらにハイテクによる産業調整と企業技術革新に関係する60プロジェクトを2004年中に公表する予定である。各地方政府も独自の政策を打ち出しているが、ほとんどが現在存在する業種を並べたものである<sup>3</sup>。なお、中央政府の財政・金融面での具体的優遇措置は2004年11月8日時点で発表されておらず、待たれるところだ。最近、旧工業基地振興の基本政策、国有企業改革の基本政策に関する黒龍江省の方針が発表された（資料1、2参照）。各省における具体的な方針を推し測ることができよう。

東北振興策を推進していく上で課題となる点は何か。第一に保守的と言われる東北地域の人々の思想転換と人材の活用が必要である。特に、国有企業改革には思い切った発想の転換が求められる。第二に、従来バラバラに動いてきた3つの省が協力する必要がある。3省とも自分の利益だけを考え、競争意識を持っているようでは統合的政策が推進されない。例えば、大連港を3省が共有する国際港湾として発展させていくのが望ましい。第三に、外資や政策の支援に過度に依存して自助努力をおろそかにしてはならない。特に国有企業の構造調整は主体的に行わなければならない。外資に国有企業改革を期待するのは間違いである。この点、国債利用事業である第1期プロジェクトの今後の進展が期待される。第四に、北東アジア地域の政治・安全保障状況が安定的でなければならない。

東北振興計画が成功するかどうかは、国有企業改革が進

<sup>1</sup> この地域の経済的優位性は、フルセットの産業基盤を有していることにある。

<sup>2</sup> 沈海濤「中国東北地域の振興戦略と北東アジア地域の協力」、国際シンポジウム《北東アジア時代における環東海地方政府間新交流・協力》（2004年9月、韓国江原道）における発表原稿

<sup>3</sup> 地方政府の方針：

- ・遼寧省：「2つの基地（装備製造業、原材料）と3つの産業（ハイテク、農産品加工、現代的サービス）」
- ・吉林省：「5大産業基地（自動車、石油化学、農産品加工、現代漢方薬とバイオ、ハイテク）」
- ・黒龍江省：「6大産業基地（設備製造、石油化学、エネルギー、自然食品、医療、森林）」
- ・瀋陽市：総額3,008億元、総件数100件（工業73件、サービス業9件、農産品加工業18件）」
- ・大連市：「国際水上運輸と4大産業基地（石油化学、電子情報およびソフトウェア、設備製造、造船）」
- ・長春市：「4大中産業（自動車、農産品加工、光電子、バイオと医薬）」
- ・ハルビン市：「5大重点分野（発電所プラント設備および部品生産、医薬品、乳製品および食料加工業、航空機および自動車製造業、測量機器およびベアリング加工業）」

められるか、そのために必要な資金をどのように調達できるか、各省間がどのように調整・協力できるか、外資導入が得られるかにかかっているといえよう。

## 2. 日本と中国東北3省の経済交流の実態

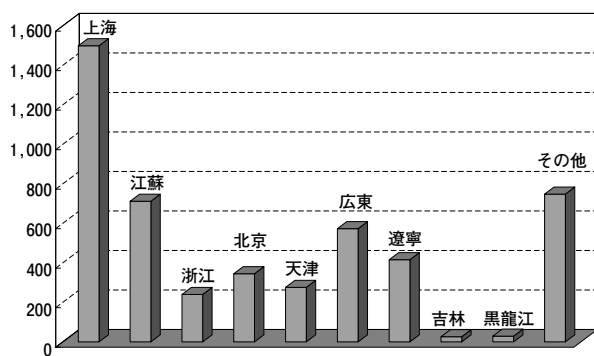
中国の改革開放以来、日本と中国の経済交流は活発に推移してきた。特に1990年以降の伸びが著しく、輸出入合計は90年の166億ドルから95年には575億ドルへ、2000年には832億ドル、さらに2003年には1,336億ドルに達した。2003年の中国の対日輸出は594億ドル（前年比+22.7%）、輸入が742億ドル（前年比+38.7%）と順調に伸びている。日本は、同年の中国の輸出相手国としては、米国、香港に次ぐ第三位、輸入相手国としては、第一位、輸出入合計でも第一位であった。また、日本の対中直接投資（累計）は、香港・マカオ、米国に次いで3位となっている。

日本と中国、日本と東北3省の経済交流の実態を地域別に見ると2つの特徴がある。

第一に、日本と中国の貿易や直接投資は上海と中心とした華東地域や深圳などの華南地区に偏っており、東北3省との経済交流は遅れている。第二に、東北3省間でも違いが大きい。遼寧省との貿易・投資はともに活発であり、特に大連には約2,000社以上の日本企業が進出している。しかし、吉林省・黒龍江省との経済交流は少ない。

最近の中国進出日本企業の地域別分布を見ると、上海・江蘇・浙江の合計が全体の50.4%を占めているのに対して、東北3省合計で9.7%である。東北3省の中では、遼寧省は8.6%を占めているが、吉林省（0.5%）、黒龍江省（0.6%）への直接投資は非常に少ない。（図1）

図1 在中国進出日本企業の地域別分布（件数）



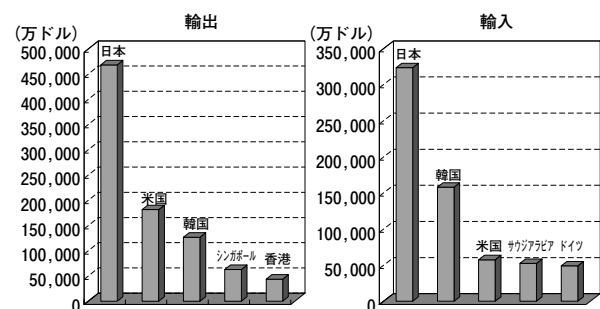
出典：21世紀中国総研編「中国進出企業一覧（2003～2004年版）」

2002年の対外貿易統計によると、東北3省から日本への輸出額は51.19億ドルで、中国全体の対日輸出の10.6%を占める。内訳は遼寧省が46.8億ドル、吉林省が2.64億ドル、黒龍江省が1.75億ドルで、遼寧省が傑出していることがわかる。特に大連の対日輸出は32.72億ドルに上る。東北3省の日本からの輸入は36.04億ドルで、全国の6.7%を占める。内訳は遼寧省が32.34億ドル（うち大連が25.3億ドル）、吉林省が1.72億ドル、黒龍江省が1.98億ドルである。これに対し、上海・江蘇・浙江の華東3省の対日輸出は巨大で、全国の38.4%、日本からの輸入は全国の36.3%を占める。

東北3省の貿易相手国を見てみると、各省の特徴がはっきりする。

遼寧省は日本との関係が非常に強く、輸出の37.85%、輸入の24.5%が対日である。（図2）その背景には大連が工業団地を建設し、日本企業を重点的に誘致してきた経緯がある。大連は日本語を使える人材が多く、中国で唯一のソフトウェア人材育成基地の指定を受けている。また、港湾施設も充実しており、地理的にも日本から近い。大連に約2,150社以上の日系企業が進出している<sup>4</sup>。また、これらの日系企業に優秀な人材を確保する目的で、日本政府が無償援助で「日中友好大連人材養成センター」を建設する予定である。

図2 遼寧省の主要貿易相手国（2002年）



出典：中国対外経済貿易年鑑

表1 遼寧省の主要貿易相手国（2002年）

相手国	輸出		輸入	
	輸出額 (万ドル)	割合 (%)	輸入額 (万ドル)	割合 (%)
日本	467,957	37.85	323,397	24.50
米国	181,307	14.66	158,103	16.87
韓国	126,620	10.24	57,624	6.15
シンガポール	62,710	5.07	52,721	5.62
香港	43,382	3.51	49,131	2.24
総額	1,236,600	100	2,173,900	100

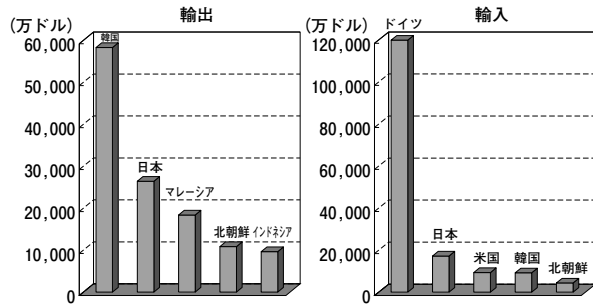
出展：中国対外経済貿易年鑑

吉林省の対外貿易では、韓国への輸出とドイツからの輸入が際立っている。吉林省は主に延辺朝鮮族自治州を中心

<sup>4</sup> 「国際貿易」2004年9月14日

に朝鮮族の人民が多く居住し、昔から韓国との結びつきが強い。延辺州には韓国企業の工場も多く進出している。一方、長春にはドイツの自動車産業が組立工場を建設しており、大量の部品をドイツから輸入している。日本との貿易・投資は少ないが、日系自動車会社の進出が決まっており、今後は関連部品製造企業を含め、日本からの投資、あるいは部品の輸出が増加すると見られる。(図3)

図3 吉林省の主要貿易相手国 (2002年)



出典：中国対外経済貿易年鑑

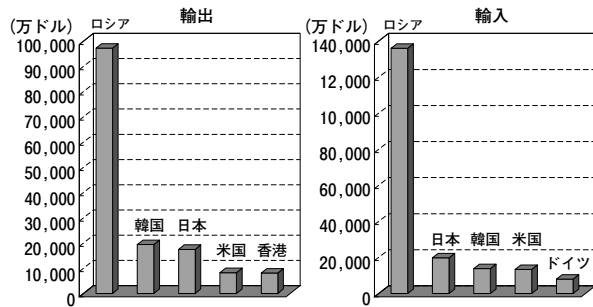
表2 吉林省の主要貿易相手国 (2002年)

輸出			輸入		
相手国	輸出額 (万ドル)	割合 (%)	相手国	輸入額 (万ドル)	割合 (%)
韓国	58,253	32.9	ドイツ	119,918	62
日本	26,399	14.9	日本	17,218	8.9
マレーシア	18,356	10.4	米国	9,358	4.8
北朝鮮	10,809	6.1	韓国	9,252	4.8
インドネシア	9,633	5.4	北朝鮮	4,400	2.3
総額	176,854	100	総額	370,291	100

出典：中国対外経済貿易年鑑

黒龍江省の貿易では地理的優位性を発揮し、輸出入ともにロシアが支配的である。日本は輸出相手では3位、輸入相手では2位にとどまっておらず、直接投資も少ない。なお、黒龍江省には改革の対象となる国有企業が多く、東北振興策に対する地元の期待が大きいものと見られる。(図4)

図4 黒龍江省の主要貿易相手国 (2002年)



出典：中国対外経済貿易年鑑

表3 黒龍江省の主要貿易相手国 (2002年)

輸出			輸入		
相手国	輸出額 (万ドル)	割合 (%)	相手国	輸入額 (万ドル)	割合 (%)
ロシア	97,221	48.91	ロシア	136,047	57.61
韓国	19,372	9.75	日本	19,813	8.39
日本	17,478	8.79	韓国	13,865	5.87
米国	8,243	4.15	米国	13,398	5.67
香港	8,116	4.08	ドイツ	7,929	3.36
総額	198,700	100	総額	434,900	100

出展：中国対外経済貿易年鑑

### 3. 東北振興に向けての両国の動き

東北地域の日本への期待には非常に大きなものがあるようだ。「日本は来てほしくない時(戦前)に来て、来てほしいと思っている時(特に90年代以降)になぜ来てくれないのか」という声も聞かれる<sup>5</sup>。このような思いを現実のものとする動きが始まったのだ。

東北振興策に向けて、中国政府も積極的に日本の協力を呼びかけている。2003年10月に瀋陽市長が、11月には遼寧省書記が来日した。

2004年3月、日本の仙台において、「2004年日中経済協力会議 - 於仙台」が日中東北開発協会と東北3省1自治区各政府の主催で開催された。これは、日本の東北地方7県と中国東北3省1自治区の官民が一同に会して、経済協力を協議したものである。中国側から参加した東北3省の省長は、東北振興策への意欲、国有企業改革への決意、日本との合作への期待を語った。

そのほか、日本の経済団体と協力して多数の投資ミッションを受け入れている。例えば、2003年10月、伊藤忠商事が社長を団長とする東北経済訪問団をハルビンに派遣した。続いて住友商事ミッションが現地を訪問し、2004年5月、三菱総合研究所のグループが遼寧省を視察している。同年9月、日中経済協会の訪中ミッションが東北3省の企業を視察した。ハルビンの製薬工場、鞍山の製鉄工場などを訪れ、国有企業改革の実態を観察した模様である<sup>6</sup>。同月、東経連(東北経済連合会)の中国東北部経済交流視察団がハルビン、長春、瀋陽を視察し、自動車工場、製薬会社、化学工場、ハイテク技術開発区などの視察を行った。

日本政府もODAで支援を行っている。前述の「日中友好大連人材養成センター」プロジェクトは、実用的な日本語能力とIT、工学、経営学などの専門技術を兼ね備えた人材を養成することを目指すものである。資金協力の上限を9億6,800万円とし、5階建ての建物を2006年春に竣工予定で、年鑑の要請者数は3,900人に上る見込みである。

<sup>5</sup> 江原規由「指導する中国東北部開発」、ジェトロセンサー、2004年3月

<sup>6</sup> 朝日新聞、2004年9月15日

#### 4. 日本企業の対応と今後の展望

このように、日本企業は中国・東北3省に期待を示し、現地視察を活発に行っているが、果たしてこれらの商談が日本企業の技術協力や直接投資に結びつくだろうか。長期的にはこれらの努力は実を結ぶことだろう。華東や華南での成功を取めた日本企業は内陸への関心を高めつつある。「中国は東北振興という最後のシグナルを日本に送っている」と考え、積極的に対応する大企業もある。積極的に進出する欧米やアジアの企業に遅れをとることを心配する企業もある。しかし日本企業は慎重で短期間に大きな動きがあるかどうか心配だ、という専門家もいる。日本企業はなぜ東北3省への進出に慎重なのか。

第一に、投資環境に関して不安がある。日本企業は既に進出している華東地域と比べて投資環境が整っているかという点を問題にする。関連部品などが調達できるか、良質な労働力が豊富か、投資受け入れ窓口のサービスは迅速で丁寧か（ワンストップサービスが行われているか）、交通アクセスは便利か、といった項目が重視される。既に大連は信頼を得ているが、大連以北の地域では信頼がまだ無い。

第二に、日本企業は国有企業改革に関与することに消極的である。国有企業は中国側で改革して、福利厚生部門などの企業活動に関係ない部門を切り離し、不採算部門や余剰人員を整理し、スリムになってから日本企業も協力する可能性があると考えている。実際、国有企業の中には福利厚生施設の地方政府への移管、余剰人員の削減、従業員給与に格差を導入するなどの措置を導入して収益力のある企業に変身を遂げているところもある。再編・改革に成功している企業は外国企業との協力を進めることが容易とな

る。

第三に、中央政府の具体的支援策が明確になっていない。第一次プロジェクトのほか、どのような支援措置がなされるのかがいまだ不明瞭である。現状では、外資系企業にとって東北振興がビジネスチャンスであるか否かの経営判断が困難なため、行動を差し控えている外国企業も多いと思われる。

中国政府、東北地方の行政や企業の努力でこれらのマイナスイメージを解消し、魅力的優遇策を用意して誘致策を展開するならば両国にとって実のある経済協力ができるだろう。特に、同じ中国内で外資誘致に成功している華東地区に学ぶべき点は多いと見られる。

また、東北地域に良質な労働力が豊富にあり、外資企業に供給可能であることをアピールするのもよいのではないか。上海などでは、現在すでに良質な労働力が不足しているといわれている。同時に、労働争議を地方政府が責任を持って処理することを約束すれば、日本企業には魅力的にうつるだろう。

既に大連には多くの成功例があり、それ以外の地域でも企業進出は始まっている。東北内陸における成功例としてはトヨタ自動車の長春進出がある。トヨタ自動車は長春第一汽車と提携して、ランドクルーザーなどの乗用車の製造を始めた。自動車製造業は裾野が広く、部品メーカーなどの進出も期待されることから中国側の注目度が高い。さらに標的を重工業に限定せず、軽工業振興の可能性をさぐる必要もあるのではないか。今後も日本の製造業企業と中国国営企業との協力が期待される。

## 資料 1

## 旧工業基地振興改革重要プロジェクトおよび関連政策

中国黒龍江省發展和改革委員会副主任 遲秀峰

## 黒龍江省の旧工業基地振興に対する基本的な考え方

東北地区など旧工業基地振興の戦略は、党中央および国務院が打ち出した東部開放、西部開発に次ぐ重大な戦略的決断であり、わが省の改革と發展に歴史的な機会を提供するものである。全面的な振興を実現するため、わが省は『黒龍江省旧工業基地振興全体計画』を制定した。

その戦略目標は、2段階に分かれる。第1段階は、2005年までに突出した矛盾を解決することを重点に置く。それは主に体制改革、旧体質の変革、職能転換、雇用促進、基礎固めであり、調整と改造が段階的に成果を上げ、国民経済全体の素質を一層向上することにある。第2段階は、第1段階を実現した後の5年に亘り、全面的な振興を実現する。それは主に規模の拡大、レベルアップ、利益の増加、実力の増強、躍進の実現であり、新しい産業基地を建設し、わが国の新しい経済成長地域を形成するものである。この目標に向け、我々は体制の改革・改造、調整・改造、企業誘致・改造を行い、これらを適切に結合させる。体制改革－調整－企業誘致－改造を通じ、最終的に旧工業基地の全面的な振興を実現する。これはわが省の旧工業基地振興の「ガイドライン」となるものである。

戦略的な重点として、我々は「1つの困難」に打ち勝ち、「2つの刷新」を堅持し、「3つの能力」を増強し、「6大基地」を建設し、全面的な振興を実現する。

「1つの困難」に打ち勝つことは即ち、国有企業改革を強力に推進することである。所有権制度の改革を突破口にし、所有権の多元化を実現し、活力に富んだ市場主体を育てる。

「2つの刷新」の堅持とは即ち、体制と機構の刷新のことである。思想を解放し、考え方を新しくして、計画経済による思考慣習と行動様式を徹底的に改め、経済發展を阻害する体制的障害を取り除く。産業構造の調整、生産要素の組み合わせ、企業経営管理などの面で、市場経済の要求に適応し、新しい機構と運営方式を採用する。

「3つの能力」を増強することは即ち、①自力更生によって国家の支持を積極的に獲得し、自らの潜在力を掘り起こし、内在する活力を刺激し、成長方式を変え、自主發展能力を強めること、②既存の工業基盤の優位性を生かしながらハイテクを發展させ、伝統的産業を改造し、産業構造の合理化とレベルアップを促進し、主要分野の競争力を強化

すること、③科学的な發展展望を樹立し、發展と資源・環境・人口との関係を調整し、とりわけ資源型都市経済への転換に力を入れ、後続産業と代替産業の發展を速め、持続可能な發展能力を強めることである。

「6大基地」を建設することは即ち、黒龍江省の比較優位性を發揮し、機械、石油化学、エネルギー、食品、医薬、森林等の新型産業基地の建設に注力し、工業全体の素質を高め優位化させることである。

「全面的な振興を実現する」ことは即ち、①食糧主要産地の建設を強化し、畜産業を大いに發展させ、現代的農業の發展を加速すること、②観光業と現代的サービス業に重点に置き、第三次産業を大いに發展させること、③対外開放を一層拡大し、経済の国際化を推進すること、④インフラ整備を強化し、經濟發展の環境を改善すること、⑤科学技術、教育、文化、衛生などの社会的事業を積極的に發展させ、社会全体の進歩を促進し、都市と農村、經濟と社会の均衡の取れた發展と旧工業基地の全面的な振興を実現することである。

## 投資機会

良好な合作の機会を提供するため、全省の旧工業基地振興の全体計画における700以上のプロジェクトの中から8分野276点を重点プロジェクトとして選択した。これらは国家産業政策に符合し、これまでに一定の成果があり、製品競争力が高く、經濟利益も高い企業誘致・外資導入プロジェクトである。これらのプロジェクトの多くは批准され、条件も比較的成熟し、中国語、英語、ロシア語、日本語、韓国語の5カ国語によるパンフレットとCDが作成された。投資合作の選択肢として、プロジェクトの概要を紹介する。

## ①機械工業プロジェクト

機械工業はわが省の優位産業である。わが省は重大プロジェクトに基づき、核心技術を導入し、自主開発と刷新能力を強化し、デジタル技術で機械工業を改造し、機械製品の技術水準と国際競争力を高める。

## ②石油化学および医薬工業プロジェクト

石油化学工業はわが省の基幹産業である。化学工業体系がすでに整備され、製品は全国に販売されている。調整と改造を通じて、わが省の石油化学工業は規模の經濟化、技術の先進化、加工の精密化、經營の国際化に向け發展する。

医薬工業は哈薬集団（ハルビン医薬グループ）等の基礎的な優位性と医薬資源の優位性を生かし、ハイテクと技術革新に基づき、自主開発能力を強化する。

### ③生態農業プロジェクト

わが省は農業大省であり、绿色食品の生産を一層拡大し、優良品種の作物栽培を増加し、畜産業を大いに発展させなければならない。

### ④都市インフラ整備プロジェクト

わが省の都市インフラ整備発展の重点は、汚水処理と関連水系の総合的整備、交通・輸送の発展、暖房集中供給の普及にある。

### ⑤交通エネルギープロジェクト

わが省は交通輸送業の発展が比較的早く、ハルビンを中心に、鉄道、道路を主幹とする水・陸・空路とパイプラインからなる総合交通輸送ネットワークが形成されている。エネルギープロジェクトで重点的に推薦するのは、石炭直接液化炭鉱の改造、発電・発熱連産等である。

### ⑥観光業プロジェクト

わが省は観光資源が豊富で、氷雪、森林等の観光資源は国内でも一流であり、ロシア国境ツアーには独特な特徴が

あり、観光業の発展が最も進んだ省の一つである。

### ⑦先進技術プロジェクト

わが省の科学技術の実力は国内で優位にある。毎年、1,000項目以上の科学技術成果が鑑定基準をクリアし、その内、国際先進レベルに達するものが10%以上を占め、国内先進レベルに達するものが70%以上となっている。

### ⑧所有権関連企業誘致プロジェクト

国有企業の所有権改革は旧工業基地の調整と改造の突破口である。改造する前に体制改革しなければならず、体制改革の前に企業誘致しなければならない。実力ある戦略的投資者を誘致し、国有企業に対し併合、再編、買収を行い、企業の単一な国有制構造を徹底的に改変しなければならない。

旧工業基地振興戦略の実施に伴い、黒龍江省の経済発展環境は著しく改善され、省を挙げて思想を解放し、精神を奮い起こして、誰もが振興に関心を寄せ、振興に参入する良好な局面にあつて、「重商、親商、護商、富商」（商人を重んじ、親しみ、守り、豊かにすること）の雰囲気醸成されている。黒龍江省の旧工業基地の振興のため、皆様からのご意見、投資、興業を歓迎する。

## 資料2

# 国有企業の所有権制度の改革プログラムおよび関連政策

中国黒龍江省国有資産監督管理委員会副主任 高欣

黒龍江省の国有企業改革と所有権関連誘致プロジェクトの状況について簡単に紹介する。

わが省は全国でも国有企業の比重が最も高い省である。2003年の国有工業の増加額は、一定基準以上の工業増加総額の87%を占めた。省共産党委員会および省政府は、国有企業の所有権制度改革と国有経済構造の戦略的調整をもってわが省の旧工業基地振興の突破口とすることを確立した。新たな国有企業改革の流れが全省で興り、それには次のような特徴がある。

### 1) 改革の重点は、国有大・中型企業。

改革の指導思想は大企業の改造と小企業の開放であり、「優良企業を改造し、劣等企業を退かせる」、「優れた企業を優先する」ことである。年内に、省に属するすべてと地域・市の多数の国有大・中型工業企業は企業誘致、体制改革、再編成の任務を基本的に完成しなければならない。

### 2) 改革の核心は、所有制構造の調整と現代的な所有権制度の確立。

今後2、3年以内に、わが省の400社余りのすべての国有大・中型工業企業は単一の国有体制を脱却し、明白な帰属、明確な権利と責任、厳格な保護、順調な運営による現代的な所有権制度を確立しなければならない。

### 3) 改革の根本的な道は、開放的な企業誘致。

我々は、投資実力のない自然人が債務負担の形で国有大・中型企業を買収することを一般的に認めず、主として戦略的な投資者の誘致と選択に力を入れる。これにより、外資と民間資本の国有企業参入に門戸を開くことになる。

### 4) 改革の鍵は、出資者主導による、国有資産管理体制改革と国有企業改革の同時推進。

各レベルの政府は、出資者職責機構を立ち上げて専門的に推進し、強力な改革推進チームを派遣して出資者の職責を具体的に支援し、戦略的な投資者を選定・決定し、

体制改革に伴う問題を解決するため総合的に調整し、公安・司法機関と連携して企業と社会の安定を維持する。

5) 改革の所有権取引方式は、市場競争による、公開・公平・公正な操作。

国有大・中型企業の所有権譲渡は通常、多くの協力パートナーを求め、多くの提案を比較した後、所有権取引市場に入り、オークション、入札、協議による公示譲渡ができる。

我々の新たな国有企業改革は、全国の多くの省になく、わが省でも数十年来なかったビジネスチャンスをつくり、戦略的投資者に供給するものである。

まず、東北振興戦略を実施する国家の政策支援がある。

1) 人員過剰の負担を軽減する。

今年と来年、わが省の163万人の国有企業職員が雇用関係を解除され、失業保険の適用により合理的な経済補償を得て、企業人から社会人へ変わる。

2) 債務負担を軽減する。

①中央政府は、商業銀行が不良債権を柔軟に処理し、貸付企業のその他利息を自主的に減免することを認められている。わが省と国家工商銀行本社は、360億元の国有企業の不良債権を放棄することに合意した。②これまでの税金滞納を免除する。③破産条件に符合する企業に対して、全国企業併合破産計画に優先的に組み入れる。

3) 企業の社会的機能と副業を分離する。

国有大・中型企業の本業と副業を分離し、副業の体制改革を行って余剰人員を分散配置し、政府は所得税を3年間免除する。

4) 「大集体」（集団所有制）企業の問題を解決する。

5) 中心都市の土地転換を進め、「退二（2次産業）進三（3次産業）」等の政策実施に注力する。

土地利用の転換を通じて土地の商業的な価値を実現し、これをもって改革コストに充て、職員配置や技術改造を進める。

6) 国債やプロジェクト資金を投入し、旧工業基地の調整・改造への支援を強める。

7) 資源型都市経済への転換を支援する。

国家は資源開発補償制度と衰退産業援助制度を確立しつつあり、わが省の炭鉄採掘枯渇区に50億元以上の資金を提供し、安全対策上の技術的措置を講じる。

8) 企業の負担を軽減する。

例えば、機械製造業等8業種に対して、新しい機械設備購入に含まれる増値税を控除する。固定資産の減価償却率を高め、無形資産の売却期限を短縮する。企業の研究開発費の加算控除優遇策の適用範囲を拡大する。給与

の税金計算における税前提除基準等を高める。

また、黒龍江省政府は各投資者が国有企業改革に参入する試行方法を奨励する条令を制定し、今年を「企業誘致・外資導入」年および「投資環境改善」年に指定し、投資者のためにより良い投資環境を創造している。投資者がわが省の国有企業を買収するには、原則的に国有純資産（無形資産を含む）にのみ出資し、買収する。債務相当額の資産の場合は、債務を継承する方式で買収できる。資産を超過する債務、過剰人員、社会機能等の負担に対しては、一般的に投資者が継承して負担する必要はない。年間納税が一定額を超えた場合は、地方政府は地方交付金の中から一定の奨励を与えることができる。水道、電気、ガス、通信など経営にかかるサービス経費に対しては、地方政府が投資プロジェクトの具体的な状況により投資者に優遇策上の支援や手当てを与えることができる。改造・拡張プロジェクトに対しては、国の法律、行政法規に定められた行政認可以外は、すべて審査承認制から報告登録制に変更する。黒龍江への事業展開、商談の相談には、各レベルの国有資産管理部門、企業誘致部門が一貫した無料ワンストップサービスを提供する。体制改革の過程では、地方政府が改革のためのワーキングチームを派遣し、全面的なサービスを行う。体制改革終了後は政府部門がフォローアップし、投資者の合法的権益が侵された場合、各レベルの政府苦情処理センターがそれを受理し、期限を設けて回答し解決する。

さらに、わが省は豊かな国有資源を有している。今年、わが省は改革・再編を進める地方国有大・中型企業75社を確定した。石炭、機械製造、化学工業、建材、軽工業・紡績、医薬等の業種・分野にわたり、その多くが省内の国有中堅工業企業であり、良好な産業基礎、ブランド、市場と人材・科学技術の優位性を持ち、大きな発展ポテンシャルと高い投資価値を有している。

石炭工業では、黒龍江省に現在、鶏西、鶴崗、双鴨山、七台河の4大国有鉄業グループがあり、2003年末の4大鉄業グループの総資産は約269億元、負債総額は約178億元、登録職員数は31.4万人である。今年末までに、わが省は戦略的投資者を誘致することによって、黒龍江石炭（グループ）株式有限公司を設立すると共に、香港または国内の株式市場で株券を発行して上場し、グループ株式会社を明らかな所有権、科学的な管理、効率的な運営、優良な業績を持つ大型石炭業上場企業に成長させる。

有機化学工業としては、黒龍江龍新化学工業有限公司が中国の有機ガラス業界で最も先進的な技術を持ち、製品の質量ともに優れた国家大型企業であるとともに省レベルのハイテク企業であり、全国有機ガラス業界の最先端を行く

企業である。同会社の敷地面積は24万㎡、2003年の総資産は7.55億元、負債額7.52億元、販売収入2.18億元、利益が301万元となっている。同会社の主要機械設備と工業技術はそれぞれアメリカ、フランス、イタリア等の国から導入したもので、生産技術は世界の先進レベルに達している。主要製品の生産能力は、アクリル酸メチルエステル20,000トン/年、ポリアクリル酸樹脂12,000トン/年、ポリ塩化ビニル加工触媒剤5,000トン/年、有機ガラス casting 装置4,000トン/年。現在、同会社は国内外の戦略的投資者の資本参加、株所有を広く誘致し、迅速な強化・拡大目標を実現しようとしている。

軽工業製紙としては、黒龍江省ス達国際製紙グループ有限公司が総資産16.8億元（内、ロシア・チタ州のパルプ工場建設プロジェクトへの設備投資が4.34億元）、登録資本金4億元、パルプと機械製紙の年間生産能力は16万トンである。国内外の一貫管理、森林・パルプ・製紙の一体化、近・中・遠距離にわたる考慮、グループ化の発展構想に基づき、同会社は現在、ロシアと省内の森林資源を背景として、戦略的投資者の資本参加、株所有を誘致することにより、わが省の製紙業の拡大・強化を図っている。

ホテル施設としては、華僑飯店がハルビン市の最も繁華な中心部に位置しており、黒龍江省博物館、秋林公司、地下国貿商店街に隣接している。同ホテルの敷地面積は

10,948㎡、建築物総面積が24,943㎡。同ホテルの主要業務は客室、レストラン、その他付属サービス業務である。現在、同ホテルの客室営業面積は10,700㎡、299室、レストラン部門の営業面積は2,460㎡。2004年6月現在、華僑飯店の総資産簿価は4,109万元、負債額は4,059万元である。投資者の資本参加、株所有、または全資本買収を歓迎する。要するに、外資と民間資本は、わが省の国有企業を再編することによって、より少ない現金支出でより多い国有財産を獲得することができ、より短期間で大規模な資本拡張を実現し、より少ない費用で多くの優秀な人材、技術労働者、先進設備、老舗ブランドと販売ネットワークを得られ、低コストで迅速な発展を実現できる。

多国籍企業がわが国における戦略的な合作を完成する機会、わが国の新しい経済成長期としての市場機会、東北振興のための政策機会が、ここ2～3年に限られているため、わが省は今年と来年を決戦の年とし、2006年を仕上げの年とし、3年間で国有企業改革の任務を達成しなければならない。商機は限りなく、機会は一瞬である。

(2004年9月20日、東北経済連合会・中国東北部経済交流視察団「黒龍江省ビジネス交流会」における黒龍江省の報告より、東北経済連合会・ERINAにて翻訳)

### 資料3

## 東北旧工業基地国債プロジェクト（第一期）

●遼寧省（52プロジェクト）4,420,698万元

単位：万元

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
遼寧省（35プロジェクト）（大連を除く） 自動車・船舶プロジェクト				3,101,337 215,158
1	丹東曙光車橋公司	地方	技術の導入、柔軟性がある加工及び組立生産ラインの建設。大・中型バス車体及び変速機セットケース生産能力の増加。	25,600
2	丹東518内燃機有限責任公司	地方	鑄型加工及び熱処理技術の改善、重要設備の増設、鍛造クランク・シャフト製品生産能力の増加。	13,958
3	營口自動車滑軸受有限責任公司	地方	滑り軸受自動加工ラインと軸受金加工ラインの新設、検査測定設備の増設、生産能力の増加。	12,000
4	渤海船舶重工有限責任公司	中央	500×108×12.7mの大型ドックの新設、600トン門型クレーン2基の配置。395m埠頭の新設。鋼板前処理工場、部門別組立溶接工場等の新設。部分的加工・輸送設備の増設。	130,000
5	瀋陽機関車車両有限責任公司	中央	重要技術加工、検査測定設備の増加、高速貨車総組立生産ラインと重要部品工程の改善。部分的工場の改増築。	14,000
6	瀋陽北恒銅業有限責任公司	地方	銅及び銅合金接触線、銅及び銅合金協力ケーブルと接触網部品生産ラインの増改築。部分的工場の部分的改善。重要設備の増加。	19,600



番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
<b>機械設備プロジェクト</b>				83,885
1	瀋陽ポンプ株式有限公司	地方	超臨界ユニット給水ポンプ、1,000MW原子力発電主要ポンプ及び補助ポンプの発展。重要設備の購入、60万KW以上の超臨界試験回路の確立、企業情報化システムの整備。	10,000
2	瀋陽高圧スイッチ有限責任公司	地方	GIS小型化及び750KVスイッチプロジェクト。技術の導入、実験設備の購入。絶縁、鋳造表面処理専門技術生産条件の新設。	16,500
3	撫順華泰電器製造有限公司	地方	超高圧送電設備製造プロジェクト。9m高炉と工場の新設、天然ガス採用燃焼炉の改造と試験設備の増加。	10,875
4	瀋陽送風機集団有限公司	地方	大型タービン圧縮機。30,000KW大型試験台の新設、化学肥料とエチレン装置大型化のため付属大型圧縮機の帯負荷試験運転問題の解決、部分的な重要設備の増加、加工精度問題の解決。	19,500
5	瀋陽気体圧縮機株式有限公司	地方	石炭液化工程付属大型ピストン圧縮機。部分的な重要設備と試験能力の増加、石炭液化とその他大型石化装置に100トンピストン圧縮機の提供併せて産業規模の形成。	12,000
6	鞍山亨通バルブ有限公司	地方	転炉製鋼ガス回収専用バルブ（セット）プロジェクト。三次元設計技術の導入、デジタル化加工設備の増加、バルブセット年間70セット生産ラインの建設。	4,700
7	丹東東方测控技術有限公司	地方	インテリジェント化非接触式オンライン検査測定器。製品研究開発センターの設立、重要設備機器の購入。建設後、各種インテリジェント化非接触式オンライン検査測定器生産能力の形成。	6,810
8	営口冠華オフセット印刷機有限公司	地方	重要加工設備の購入、検査測定及び実験能力の整備、二色多機能（全紙八つ折り、四つ折り）オフセット印刷機の開発・生産。	3,500
<b>軽工業紡績プロジェクト</b>				10,000
1	海城後英バイオテクノロジー有限公司	地方	大豆蛋白生産ラインと大豆活性物質生産ラインの建設、分離蛋白、濃縮蛋白等大豆蛋白系列製品と大豆活性物質系列製品の生産。	10,000
<b>冶金プロジェクト</b>				1,257,000
1	鞍山鋼鐵集团公司	中央	第三冷間圧縮薄板工場プロジェクト、冷間圧延生産ライン一本、亜鉛メッキ生産ライン二本、彩色塗装生産ライン一本。	520,000
2	鞍山鋼鐵集团公司	中央	第2号高炉プロジェクト、3,200立方メートル高炉一基。	131,000
3	本溪鋼鐵（集団）公司	地方	第二冷間圧縮薄板プロジェクト、冷間圧延生産ライン一本、亜鉛メッキ生産ライン二本、彩色塗装生産ライン一本。	420,000
4	錦州天元吳先進材料公司	地方	マグネシウム合金車輪ハブプロジェクト、年産車輪ハブ50万個。	18,000
5	撫順アルミニウム工場	地方	撫順アルミニウム工場チタニウムの増築。	20,000
6	撫順アルミニウム工場	地方	撫順アルミニウム工場第二電解アルミニウム工場の改造。	110,000
7	葫蘆島亜鉛工場	地方	葫蘆島亜鉛工場銅製錬の改造、銅製錬システムの改造。	19,000
8	葫蘆島亜鉛工場	地方	葫蘆島亜鉛工場亜鉛合金プロジェクト、亜鉛合金生産ライン。	19,000
<b>希土類建材プロジェクト</b>				12,600
1	遼寧天利金業有限責任公司	中央	バイオ酸化技術利用による難選冶金鉍資源の処理、技術改造を通じたバイオ酸化金精選工場の能力向上。	12,600
<b>医薬プロジェクト</b>				27,040
1	東北製薬集团公司	地方	東北大薬房現代物流センター改造プロジェクト。15,000平方メートルの多機能卸売配送センターの建設、入庫、販売、保管物流情報システムの構築。	6,000
2	瀋陽漢方製薬有限公司	地方	新技術の採用、既存伝統的生産技術の改造、国家第二類新薬「ウヤク（烏薬）多フェノール」と国家第三類新薬「中風康」産業化の実現、併せてGMP改造。	4,800
3	遼寧華源本溪三業有限公司	地方	気滞胃痛顆粒等漢方薬の産業化。	7,540
4	遼寧恒仁業業有限責任公司	地方	漢方薬現代純化技術と設備技術改造。既存抽出技術の実行、有効成分貯蔵量と有効薬物活性の向上。国家第二類漢方薬保護品種乳癖消の規模生産の形成。	5,700
5	瀋陽市興齊製薬有限責任公司	地方	復方電解質眼内洗浄液等新薬の産業化。	3,000

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
<b>石油化学工業プロジェクト</b>				1,378,991
1	遼寧連合石化有限責任公司	地方	エチレン16万トンから40万トンへの拡大、併せて40万トンポリ塩化ビニール能力等の新設。	990,000
2	錦化化工集団	地方	万トン／年TDIプロジェクト第一期工事。	96,454
3	中石油遼寧石化分公司	中央	PTA年産80万トン及び付属原料技術改造プロジェクト。	292,537
<b>化学工業プロジェクト</b>				116,663
1	遼寧華錦化工集団	地方	合成アンモニア尿素装置省エネ増産改造NPK複合肥料プロジェクト。	87,743
2	遼寧天河精細化工株式有限公司	地方	アルキル基ベンゼンスルホン酸年産1万トン工事。	17,085
3	營口市向陽化工総工場	地方	プロピレン重合高効率球型触媒年産100トン。	11,835
<b>大連市（17プロジェクト） 自動車・船舶プロジェクト</b>				1,319,361 126,500
1	大連亜明自動車部品製造有限公司	地方	数値制御圧力鋳造機、加工センター、深傷機等設備機器の増設、増設能力500トン。	6,500
2	大連造船重工有限責任公司	中央	部門別塗装センター、艤装センター、管加工センター等の建設。600トン門型クレーン1基の増設。コンピューターソフト・ハードの購入、企業情報化改造の実施、工場内運動エネルギー要領増加の改造。	75,000
3	大連新船重工有限責任公司	中央	(1)船体部門別製造能力の増築。(2)船装埠頭の増築。(3)情報化建設。(4)全工場運動エネルギー施設容量増加、改造。	45,000
<b>機械設備プロジェクト</b>				90,400
1	大連重工起重集団有限公司	地方	大型門型クレーン、大型鋳鋼部品、大型門型クレーン、大型鋳鋼部品生産能力の増加。	42,000
2	瓦軸集团公司	地方	重大装備精密ベアリングプロジェクト。国内外先進水準の技術及び装備の採用、冶金鉍山ベアリング、旋盤精密ベアリング等品質の向上。	18,800
3	大連旋盤集团公司	地方	高速加工センター。五面体加工センター、数値制御門型フライス盤等設備の新設、面積26,000平方メートル工場の建設。高速加工センター規模生産能力の形成。	19,600
4	大連冰山集団	地方	農産物付加価値加工冷凍プラントの改造。庫板生産ライン、羽状パンチプレスの導入と数値制御パンチプレス、パイプバンダー等設備の購入で改造。	10,000
<b>農副産物付加価値加工プロジェクト</b>				70,374
1	大連盛大集団全盛業トウモロコシ開発有限公司	地方	国内先進技術の採用、海外の先進設備の導入、トウモロコシ加工処理系列付加価値加工製品生産の建設。	30,720
2	大連礎明集団有限公司	地方	先進的な畜加工設備の導入、加工豚肉年産8,000トン、加工肉製品年産1.5万トン、製品は輸出が主。	12,624
3	大連海昇果業有限責任公司	地方	果物・野菜付加価値加工。重要生産設備の購入、年産高濃度天然果汁2,000トン。	8,500
4	大連韓偉企業集団有限公司	地方	海外先進的な技術及び設備の導入を通じた、海外優良品種鶏の導入、液体卵加工生産ラインの改築。卵製品生産ラインと鶏肉粉加工生産ラインの建設、年産エコ生卵12万トン、卵製品3,500トン、鶏肉粉1,000トンの生産。	18,530
<b>希土類建材プロジェクト</b>				50,000
1	遼寧大連セメント有限公司	地方	日産5,000トンセメント。	50,000
<b>石油化学工業プロジェクト</b>				919,134
1	中石油大連分公司	中央	ロシア輸入の含硫黄原油加工技術改造プロジェクト。	919,134
<b>化学工業プロジェクト</b>				62,953
1	大連三科科技發展有限公司	地方	SK系列ナノ微粒子機能塗料生産ラインの形成。	17,240
2	大化集団有限責任公司	地方	クリーン石炭ガス化工事。既存技術を基礎に、新技術及び部分的な重要設備と機器の導入、石炭で残油代替した合成アンモニアの生産。	19,867

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
3	大連振邦弗素塗料株式会社	地方	万トンフッ素塗料産業化工事プロジェクト。国内外先進的な塗料生産ラインの導入、単独工程、樹脂重合工程、塗料製造工程、環境保護工程等付属補助施設の建設。	16,000
4	大連緑源新化学株式会社	地方	NAHP年産300トンとFQA500トン工事。	9,846

## ●吉林省（11プロジェクト）544,429万元

単位：万元

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
長春市（5プロジェクト）（その他未入手） 自動車・部品プロジェクト				249,412 4,900
1	長春富奥自動車部品有限公司	地方	長春富奥自動車部品有限公司タービン増圧機プロジェクト。年産15万台。	4,900
農副産物付加価値加工プロジェクト				239,712
1	吉林省吉發実業集团有限公司	地方	鶯鳥フォアグラ加工年間1,000トンプロジェクト。鶯鳥フォアグラ年産1,000トン。	19,985
2	長春新希望乳業集団	地方	長春新希望乳業集団年産20万トン乳製品建設プロジェクト。各種果実味生産ラインの建設、海外先進設備の導入、既存を基礎に規模の拡大、新型乳製品年産20万トン生産能力の建設、その内、超高压滅菌乳10万トン、沙棘果汁乳2万トン、脱脂乳2万トン、発酵型ヨーグルト1万トン、ADカルシウム乳1万トン、各種乳飲料4万トン。	19,998
3	長春皓月清真肉業株式会社	地方	中国皓月現代肉牛産業総合加工プロジェクト。肉牛年産50万頭、牛60万頭系列と畜加工バイオ抽出。	199,729
医薬・化学工業プロジェクト				4,800
1	吉林紫鑫薬業株式会社	地方	吉林紫鑫薬業株式会社補賢安神内服液生産ライン改造プロジェクト。補賢安神内服液年産9,000万本。	4,800

## ●黒龍江省（37プロジェクト）1,074,864万元

単位：万元

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
全プロジェクト				
1	チチハル鉄路車輛集団	中央	車軸鍛造液圧機、操作マシンハンド、加熱装置等の増設。高原鉄路クレーン生産の加工、検査測定設備の増設。コンピューターソフト・ハードの増設、企業情報化ネットワークの整備。鉄道貨車試験線の建設、付属試験設備の購入。	27,000
2	ハルビン航天鳳華科技株式会社	中央	生産条件の補充・整備、品質の向上、電動方向転換助力器年産25万セット。	1,200
3	ハルビン動力設備株式会社	中央	出海口基地建設。組立作業台、塗装室等の増加、大型燃焼機試車工場及び付属施設の建設。	22,886
4	ハルビン動力設備株式会社	中央	ガスタービンの加工。技術の導入加工設備の増設、回転子、シリンダー、タービン軸等加工条件の解決、検査測定能力の整備。	19,800
5	ハルビン動力設備株式会社	中央	強制循環と自然循環余熱ボイラー。技術の導入、高周波自動溶接生産ライン等設備の増設。ガス蒸気連合循環余熱ボイラー（HRSC）の提供。	3,500
6	阿城継電器株式会社	中央	炭鉱安全省エネ工業自動化分布式制御システム。炭鉱安全監視制御システム年間増設26セット、S-2000集散制御システム年産24セット。	15,320
7	阿城継電器株式会社	中央	電化鉄道牽引変電所、給電線安全保護と総合自動化システム。マイクロ機会牽引変電・監視・制御・保護と総合自動化システム（設備群）年産10セット。	6,500
8	チャムス電機株式会社	中央	プロジェクト単位は国内防爆電機の主導工場、国家防爆電機検査測定中心、技術力は十分、強力な製品開発能力を持つ。建設規模、各類隔爆型希土磁石同期電機18.5万KW、30,000台。主要建設内容：現有生産能力を十分に利用、磁石電機工場の重点建設、加工センター、数値制御設備と電機生産専用設備の増設、その他補助設備の改造、充実。	6,896

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
9	中国第一重型機械集団公司	中央	工場全体改造建設。直接液化加水素反応器産業化及び大連綿花島拡張建設、重型技術装備国家工程研究センター、5,000KN万吨水圧機鍛造操作機の新設、公用インフラ更新改造。	82,741
10	東北軽合金有限責任公司	中央		
11	中石油株式有限公司大慶石化公司	中央	エチレン60万トンから80万トンへの拡大、25万トン/年HDPE装置の新設。	242,788
12	中石油株式有限公司大慶石化公司	中央	化学肥料改造拡張建設。合成アンモニア30万トンから50万トンへの拡張建設、尿素48万トンから56万トンへの改造拡張建設、大類粒尿素19.8の建設。	38,634
13	中石油株式有限公司大慶煉化公司	中央	30万トン/年ポリプロピレン装置の建設。	150,000
14	中石油集団公司大慶油田	中央	酢酸年産30万トン。	111,133
15	中石油集団公司大慶石化総工場	中央	高濃度複合肥料30万トン/年。	14,056
16	牡丹江富通自動車空調機有限公司	地方	生産ラインの補充整備、重要設備の増加、自動車用空調コンプレッサー年産60万台。	18,000
17	黒龍江同工科技公司	地方	重要設備と検査測定計器の増加、副車体組み立て年産10万個、横構材と縦アーム等小型高圧部品12万個。	15,300
18	ハルビン万宇宙科技株式有限公司	地方	生産条件の補充・整備、品質の向上、コンピューター周波数安定クラクション年産500万個。	25,000
19	ハルビン空調株式有限公司	地方	600MW直接空冷システムの発展、大型原子力発電空調ユニット。重要設備の購入。600MW直冷システム空冷器1セットと原子力発電空調暖通設備2,000トンの生産能力の形成。	11,500
20	チャムス煤鋳機械有限公司	地方	大型坑道掘削機。加工センターの購入、ボーリングマシン等重要設備と計量検査測定設備の設置、コンピューターシステムと企業情報化建設の整備。大型坑道掘削機年産70台。	14,022
21	チチハル一旋盤（集団）公司	地方	WK87-3000数値制御協力スピンドルマシン。数値制御正面フライス盤、数値制御ウォーム研削盤、門型フライス盤と高精度数値制御歯車研削機等重要設備の購入、三次元測量器、円柱検査測定器、高精度ギャとダイナミック親ネジ検査器等設備機器の増加、必要なソフト、ハードの購入、コンピューターネットワークシステムの建設。我が国大規模立型スピンドルマシンの空白の補填、数値制御スピンドルマシン産業化の促進、輸入の代替。	9,600
22	チチハル二旋盤（集団）公司	地方	大重型数値制御フライス盤。重型装備工場の改造、精密数値制御工場の建て直し、門型五面加工センター、数値制御正面フライス盤等重要設備及び計器の購入、併せてCIMS工程の実施。大重型数値制御フライス盤は90年代先進技術に到達、企業生産値数値制御率は69%に到達。	4,600
23	鶏西煤鋳機械有限公司	地方	高生産・高効率・大パワー電気牽引石炭採掘機。重要設備と共同設備の増加。大パワー電気牽引石炭採掘機年産30台セット。	13,000
24	黒龍江北大荒麦芽集団	地方	ドイツ先進の立型麦芽設備の導入、生産規模の拡大、大麦加工年間19.2万トンの実現、大麦芽年産15万トン及び麦根、等外大麦、浮麦等副製品、その内：大麦芽年産50万トン生産ラインの増築、大麦芽年産10万トン生産ラインの建設。	26,213
25	黒龍江北大荒米業集団	地方	先進設備の導入を通じて、生産規模の拡大、玄米年間処理20万トン、精製米年産13.4万トン、米糠栄養素年産1,800トン、米胚芽飲料年産7,200トン、即席鮮度保持ご飯年産1,800万ケースの実現。	19,959
26	黒龍江省豊緑麦業（集団）有限公司	地方	小麦付加価値加工。先進的製粉工程と技術の導入、海外先進設備の導入、小麦付加価値加工専用粉設備	12,000
27	黒龍江省五常葵花業有限公司	地方	固体、液体製剤工場薬品生産管理規範改造。薬品生産管理規範に基づき、国内先進生産設備の購入、隔地の新設固体、液体、総合、前処理抽出工場。改造後、小児肺熱咳内服液年産5,400本、護肝錠年産120億錠、胃康靈カプセル10億錠。	6,894

番号	企業名称	管轄	プロジェクトの内容	総投資
28	黒龍江省完達山製薬工場	地方	注射用刺五加冷凍乾燥粉注射薬品生産管理規範改造。薬品生産管理規範に基づき、二酸化炭素超臨海抽出技術の採用、海外先進冷凍乾燥技術と設備の導入、刺五加粉注射薬工場。改造後、年産4,000万本の生産能力の実現、製品每本シリンジン配糖体 $\geq 3.5\text{mg}$ 、刺五加総配糖体 $\geq 72\text{mg}$ 、イソフラキシディン $\geq 1.0\text{mg}$ 。	10,000
29	黒龍江ウスリー江佳大製薬有限公司	地方	漢方薬水注射薬品生産管理規範改造。米国最新の分子濾過技術、現代漢方薬製剤技術の採用、薬品生産管理規範に基づき、漢方薬現代抽出、充填密閉機、化学検査測定等設備50台セットの購入、現代漢方薬水注射剤生産ライン年産4億本の建設。改造後、国内最大の漢方薬注射剤生産工場の建設、製品品質の国内先端水準の達成。	9,300
30	ハルビン製薬集団製薬六工場	地方	膜技術設備の導入、ペニシリン発酵液濾過収率と品質の向上。抽出分離設備POD機の導入、発酵単位向上、後処理設備能力不足問題の解決。国際的に先進膜濾過技術設備とPOD設備の導入を通じ、ペニシリン発酵液の濾過収率の3～5%へ向上、ペニシリンG工業カリウム塩生産量の500トンへ向上。コスト削減1.5元/10億、環境保護汚水は排出基準達成。	9,600
31	ハルビン製薬集団製薬総工場	地方	国際90年代先進水準の技術設備の採用、収率が高く、エネルギー消費が低く、GMP基準に符合した漢方薬生産装置1セットの改造、丹王顆粒薬（第三類）、康爾心（第四類）、天然牡蠣カルシウム（第三類）等新品種の増加、その市場占有率を3%から20%に上昇。年産10億粒の生産規模に到達、改造後企業の技術配置、工程技術、設備先進性は国内外の一流水準に到達。	18,000
32	ハルビン製薬集団生産工程公司	地方	生産工程薬品。製品品質の更なる向上、既存生産工場の改造、GMP基準の達成、a-2b妨害素軟膏、遺伝子組み換え人粒細胞巨噬細胞（GM-CFS）、集落刺激因子（G-CFS）、促赤血球生成素（EPO）等品種の増加、まとめた生産能力は3,000万本/年に到達、国内の市場占有率は20%に到達。	11,200
33	黒龍江中盟集団龍新化工有限公司	地方	5万トン/年メチルメタクリレート装置の建設。	67,826
34	黒化集団	地方	1.2万トン/年炭酸ジエチル素内の建設。	7,768
35	黒龍江省綏棱艾斯精細化工有限公司	地方	1,000トン/年テトラヒドロチオフェン（THT）装置の建設。	5,500
36	黒龍江省綏棱化工工場	地方	5,000トン/年TDM装置の建設。	9,000
37	黒化集団	地方	ガス化炉、4万Nm <sup>3</sup> /年ガス。	8,128

(財団法人日中経済協会、日本機械輸出組合提供)